

令和3年度 飯田小学校 学校評価だより

(中間結果報告)

令和3年9月

《学校教育目標》

心をあわせ、はつらつと、学びの道にいそしむ児童の育成

令和3年度前期の学校評価として7月上旬に実施した児童・保護者・学校職員の三者によるアンケートをもとに、子ども達や保護者の皆様の回答や御意見をまとめました。その結果を学校関係者評価委員の皆様にお知らせしました。1学期の取組と自己評価の結果について、評価委員の皆様にも評価していただき、子どもたちの様子や教育活動について意見交換がなされました。成果が見られた項目と課題となった項目について一部お知らせします。

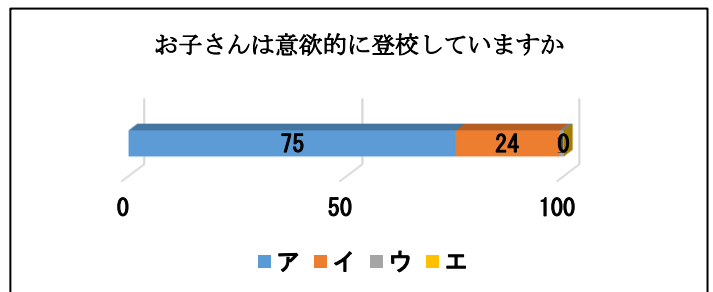
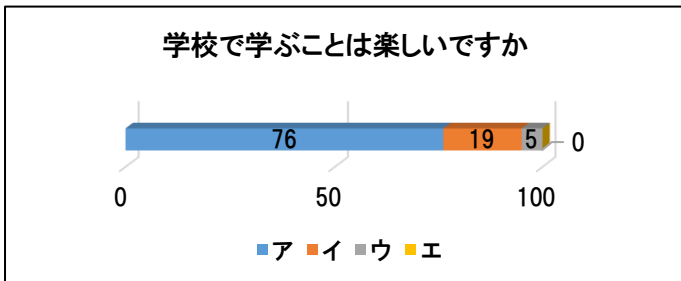
学びに向かう力の育成と学力向上

学校で学ぶことは楽しい…回答 95%

学校で学ぶことについての質問では、肯定的回答が児童・保護者ともに高めです。
児童：「学校で学ぶことは楽しい」…**低学年 92.0%・高学年 98.0% 平均 95.0%**
保護者：「お子さんは学校へ意欲的に登校していますか」…**99.0%**

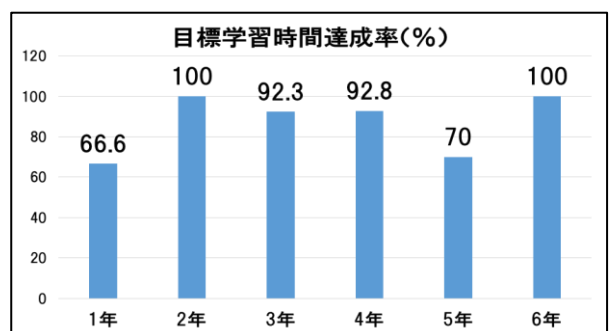
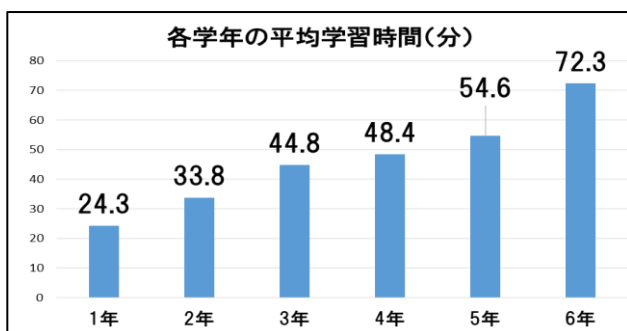
ア: そう思う
イ: だいたいそう思う
ウ: あまりそう思わない
エ: まったくそう思わない

児童・保護者ともに肯定的回答が9割を超え、子どもたちは意欲的に学んでいるとみられます。今年度も、学習意欲の向上と自己肯定感を高めることを大切に、学び合いを大切にする授業に取り組んでいます。友だちに伝わるように根拠を明確にして表現する活動に重点を置いて取り組んできたこと、学級活動や特別活動で子どもたちが主体的にアイデアを出しながら学習を進めることができたことで、充実感や達成感が得られ、学校で学習することが楽しいと実感できたのではないかと考えられます。



【家庭学習の確立】

学力向上において大切なことの一つに家庭学習習慣の確立があります。調査の結果を見ると、各学年の平均学習時間は目標時間を達成しています。しかし、目標学習時間達成率のグラフから、学習時間に個人差があることも分かります。



この結果をもとに、家庭学習の量的・質的側面について再度確認をして課題を出すこと、個人差に配慮しつつ、進んで自主学習に取り組めるよう促したり、課題の出し方を工夫したりしていきます。

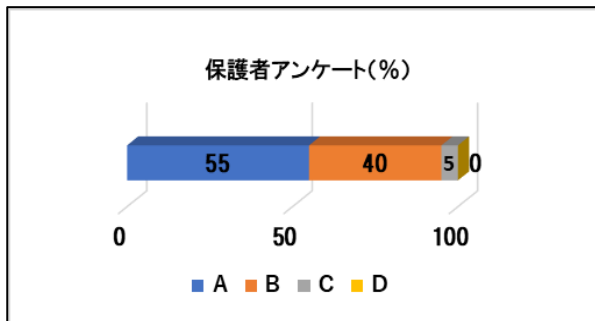
いじめ・不登校のない学校づくり

**学級会で友達の考えを聞きながら、
自分の考えを話している…児童 95%**

**学校は、いじめや暴力のない学校づくりに努めている
と思いますか…保護者95%**

今年度、特別活動の充実を図ることを重点取組としていきます。子ども達が自主的・実践的に取り組むことを通して、コミュニケーションを図り、互いの良さや個性、多様な考えを認め合いながら、よりよい人間関係を育むことを進めてきました。学級会でも子ども達一人一人の考えを大切に、さらに生活態度での指導の実践にも取り組んでいます。

7月には「いじめ撲滅集会」を開き、友だちを大切にするこことや一人一人が楽しく学校生活を送るためにはどうすれば良いのかについて、6年生の提案をもとに全校で考えました。今後も、子どもたちの小さな変化を見逃さず、いじめの未然防止に努めていきます。



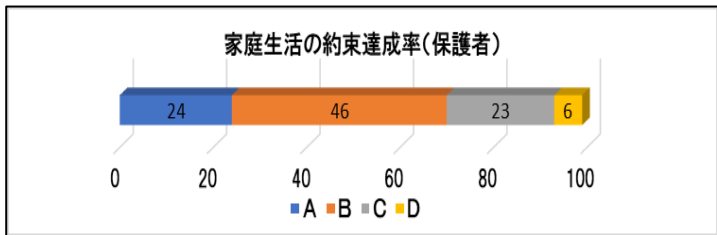
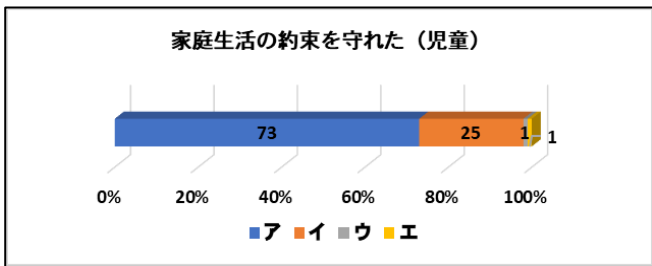
(凡例 A, B が肯定的回答)
※この質問については、C「どちらかと言えば思わない」、E「分からない」という回答がありました。「分からない」という回答を母数に含まず集計しています。今後は学校の取り組みや児童の様子についてより具体的に発信していきたいと思ひます。

いじめ撲滅集会

学校と家庭地域の連携(家庭・地域との連携協力体制の確立)

「家庭生活」の約束を守ることができた…児童 97.0%
「家庭生活」の約束の達成度合い…保護者 71.0%

ア A: そう思う イ B: ややそう思う
ウ C: あまり思わない エ D: 思わない



本校では、家庭や地域と学校との繋がりを大切に、家庭と地域の教育力を生かした学校づくりに取り組んでいます。その取り組みの一つとして「家庭生活の約束」がありますが、取り組みの達成率については、子どもたちとお家の方の意識に20ポイント以上の差が見られます。この傾向は以前から続いていることです。

保護者アンケートでは、取組に対する肯定的な意見も見られますが、継続していくことの難しさについて、様々な視点から回答がありました。学校と家庭との連携をどのように図っていくのかという点で課題が残りました。

子ども達が家庭でも自ら進んで約束を守るようにするために、学校において学級活動の「基本的な生活習慣の形成」の指導においても「家庭生活の約束」について考えるなど振り返る場面を設けていきたいと思ひます。

また、バランスアップカードの取組については、各学級でめあてを決めて取り組んでいることもあり、約8割の子ども達がよりよい生活習慣の定着を図ろうとして頑張っていることが分かりました。今後はさらに、バランスアップ週間の取組の前に、休日でも平日と同じ生活リズムで過ごすことの大切さを学年に応じて指導していきます。

家庭への啓発

資料には「家庭への啓発」に関する情報が含まれています。例えば、バランスアップカードの進捗状況を示すグラフや、家庭生活の約束の達成率に関する表が確認できます。また、保護者へのメッセージや、学校での取り組みに関する説明も含まれています。

学校関係者評価委員会

9月3日（金）に、評価委員の皆様に来校していただき、ご意見・ご感想をいただきました。ご意見をもとに、よりよいものに改善していきます。ありがとうございました。主な意見を紹介いたします。

重点項目	学校自己評価	学校関係者 評価
学びが楽しい学校づくり	A	A
主体的に課題解決する児童の育成	A	A
家庭学習の確立	A	A
特別活動の充実	A	A
規範意識の高揚	A	B
自己健康管理能力の向上	A	A
家庭地域との連携協力体制の確立	B	B
業務改善	B	B

『児童の質問項目の「友だちの悪口を言わなかった」「友だちと仲良く遊ぶことができている」で、ウやエの回答がある。また、記述にも「悪口をいわれる」と回答している子がいる。いじめの未然防止の観点からいえば、「0」になってこそ「A」と言える』というご意見をいただきました。ご意見をもとに検証指標と判定基準を見直し、修正します。

取組報告と自己評価の結果から

- ・縦割りの良さが引き継がれている。
- ・分からないことから学ぶことに力を入れていることはいいことだと思う。
- ・ペア・グループ学習の成果が出ている。
- ・挨拶がよくなってきている。卒業生の挨拶も良い。
- ・端末が児童一人一人に配付され、授業や家庭学習の場で安全に有効に使われているとのこと。時代の大きな変化を感じた。
- ・こんな時(コロナ禍)だからこそ、人と人が向き合う時間を大切にしたい。

アンケートの回答から

保護者アンケートの質問項目6「学校では、学校評価アンケートや学級懇談会などを通して、保護者や地域の思いを受けとめ、よりよく改善しようとしているように感じますか」で「D 思わない」「E わからない」との回答も寄せられました。これまでの対応が不十分であったことお詫び申し上げます。これまで無記名でのご回答をお願いしていましたが、より迅速に対応していくため、アンケートのとり方について検討したいと思います。